

平成25年度 学校評価総括評価表

(1)重点課題

- ①「個別の指導計画」を活用し、学部連携のもと個に応じた教育を継続して行います。
- ②教職員一人一人の専門性を高め、個々の専門性を活かし、教育をより充実させます。
- ③保護者、関係諸機関と連携し、「個別の教育支援計画」を活用して、幼児児童生徒を総合的に支援します。
- ④個々の能力や適性に応じた進路を見通した、系統的なキャリア教育や職業教育の充実を図ります。
- ⑤地域に貢献し、視覚障害教育に関する理解啓発を推進します。
- ⑥寄宿舎では、家庭や学校と連携を図りながら、社会生活に必要な「生きる力」を育てます。

(2)今年度の重点目標

- ①学部連携を充実させ、幼稚部から高等部までの一貫した指導体制を確立します。
- ②視覚障害教育の基礎基本を踏まえた授業実践を通して、教職員の専門性を向上させます。
- ③聾学校との併置に向けた連携・協働を図り、地域社会への理解啓発に努めます。

①学部連携を充実させ、幼稚部から高等部までの一貫した指導体制を確立します。

具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)		
<p>・幼児児童生徒の健康の保持増進を図るために、保健だよりを充実させる。</p>	<p>・学校保健や健康に関する情報を掲載した、わかりやすい保健だよりを月1回発行する。</p>	<p>・保健だよりの年間計画を立て計画的に情報発信すると共に、流行状況などその時の最新の情報についても吟味して毎月発行した。 ・年齢層が幅広いため、前面は学童期を対象に、裏面は高等部及び保護者を対象にした内容を掲載し、年齢層に応じて興味を持てる保健だよりづくりに努めた。</p>	B		<p>・年齢層が幅広く、求められる情報の内容がそれぞれに異なっているため、幼児児童生徒のニーズに応える保健だよりづくりについて更なる検討が必要である。</p>
<p>・集団生活に関わる生活習慣として自発的にあいさつできることを重点目標とし、学部学科に浸透するように働きかける。</p>	<p>・幼児児童生徒・教職員・保護者にあいさつ運動を行う主旨の周知徹底を図り、月2回朝生徒活動課員と生徒会役員で校門に立ち、あいさつ運動をする。</p>	<p>・ほとんどの幼児児童生徒が、自発的にあいさつをしていると自覚している。計画通りあいさつ運動を実施しているが、生徒の要望により11月からは月2回の内1回を校内の教室での実施に変更した。生徒同士が顔を合わせてあいさつをする機会が増えた。</p>	B		<p>・あいさつ運動は一定の効果をあげているが、保護者への周知と啓発が足りなかったことが課題である。実施の方法を若干変えたので運動を継続するとともに、ホームページ等により保護者への周知と啓発をはかりたい。</p>
<p>・幼児児童生徒に充実した人権学習ならびに人権教育が行えるように、人権教育に関する教職員研修を充実させる。</p>	<p>・フィールドワークを含め年間3回の研修を実施し、各研修会で80%以上の満足度を得る。</p>	<p>・人権教育に関する職員研修については3回を通して80%以上の満足度を得ることができた。しかし、児童生徒や保護者のアンケートの集計をみると「人権教育」は日々の取り組みであって、前面にだして授業をしているケースが少なく評価ポイントも厳しかった。保護者に紹介する機会である「人権キャリアだより」の発行も各学期末ということで良いタイミングではなかった。</p>	B		<p>・人権意識の高揚を図るために教職員が授業や学校生活の中で活用できる資料や情報の提供を継続して行い、「人権キャリアだより」の紙面に工夫を加え家庭で人権意識を共有できる内容にする。</p>

幼稚園部	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部との連携を充実させるため、幼児児童個々の目標を共通理解し、小学部と合同で行う集団活動や授業の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部との合同活動(わくわくタイム, スマイル集会)を月1回実施する。 ・年間計画に従って、事前事後の検討会を年2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者を中心に、月1回の各活動を計画的に実施できた。 ・事前に各学部との話し合いを行い、活動内容を検討した。また、1学期末にはアンケートを実施し、出された意見をもとに活動内容の改善を図った。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、小学部との集団活動を計画的に行いたい。目標について共通理解を図るため、担任の話し合い等の機会をもちたい。
高等部普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろ関わる機会の少ない他学部の児童生徒とふれあうため、文化祭で発表する演劇の練習等を合同で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部と合同で演劇の練習等を3回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部の生徒と協力・協調して演劇の練習に臨むことができ四国盲学校文化祭や本校の文化祭で成果を発表することができた。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・時間割や他の行事等との関係で予定していた練習時間より少なめとなった。合同で行う時間を増やし、ふれあいを深めたい。
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎では多様な学部の生徒が集団生活を送っており、学部と連携した指導体制が重要となるため、舎生の生活支援をより充実できるよう、学級・保護者と情報交換を行い、相互理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、学級担任・保護者と話し合う機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連絡帳やケース会議など学期に1回以上、舎生の情報交換を行いよりよい支援につなげることができた。 ・保護者とは、送迎時などを利用し、話し合いを持つことで、相互理解できるよう努めたが、保護者からはC評価があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一部評価の低い保護者がいたのが気になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も保護者との連携を深めるため、保護者の意見をより多く支援に取り入れることができるように、十分な話し合いを行う。

②視覚障害教育の基礎基本を踏まえた授業実践を通して、教職員の専門性を向上させます。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
教務課 ・幼児児童生徒の学力向上、教職員の授業力(専門性)向上のため、研究授業見学等が行えるよう時間割調整を行う。	・各アンケートにおいて、『共通理解が高まったと感じる』『学力向上や自分を知ってもらえる機会となったと感じている』の評価を全体の70%以上から得る。	・児童生徒、保護者、教員それぞれのアンケート結果より、『共通理解が高まったと感じる』『学力向上や自分を知ってもらえる機会となったと感じている』の評価を全体の70%から得ることができた。	A		・次年度も、幼児児童生徒の学力向上、教職員の授業力(専門性)向上のため、研究授業見学等が行えるよう時間割調整を行い、教職員の専門性向上の一助となるように努めたい。
サポート課 ・サポート課の持っている人的・物的資源を校内支援に活用してもらうため、サポート課だよりで視覚障害教育の専門的内容を発信する。	・10月に実施する児童生徒・保護者・職員向けアンケートにおいて、「サポート課の人的・物的資源を1回以上活用した」という回答を全体の80%以上から得る。	・サポート課だよりの発行が遅れたため、専門的内容を十分に発信することができなかった。あいれんじゃーリストや貸出備品一覧表を公開し、教員・寄宿舎指導員の72%が閲覧しているが、利用は35%にとどまった。ひまわり検診及びサポート課貸出備品は、全幼児児童生徒の67%が利用した。	B		・サポート課だよりを執筆分担して計画的に発行する。 ・各学部のサポート課員が人的・物的資源活用をアピールするとともに、年度始めに貸出備品の展示を行う。
研究・情報課 ・全教職員の授業力向上を目指し、専門的な知識や技術が得られるグループ研修を行う。また、グループ研修を活かした研究授業や公開授業を行う。	・全教職員が各グループにおいて、年間8回以上研修を行うとともに、研究授業や公開授業を参観し、年間2回以上、研究協議会に参加する。	・全グループとも、所属学部の異なる教職員で構成され、グループ毎に8回の研修を実施できた。グループ研修の内容と関連した公開授業や研究授業、授業研究会などの実施により、各グループの研究成果を共有し合うことをとおし、全教職員が授業力を向上させることができた。	A	・一部保護者の評価が低いのが気になった。	・生徒全員と多くの保護者からはよい評価をもらうことができています。しかし、2人の保護者から厳しい評価をいただいたことを鑑み、保護者から学校には大きな期待があることを再認識し、さらに授業力を向上させるよう取り組む。

幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクル(計画－実施－評価－見直し)に基づいた授業実践を行うため、視覚障害教育等に関する研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育やその他の障害、指導法に関する部内研修を、年間10回以上行う。 ・各グループでの研修内容を部内で共有する機会を2回設け、共通理解を図る。 ・各授業者は、年間2回以上「保育案」を作成して授業を行い、話し合いをもとに評価、見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の基礎や疾患、摂食指導等に関する研修を部内研や自主的な研修を含めて10回以上実施した。また、設定保育のリーダーは保育案を作成、実施し、部会等で振り返りを行った。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、視覚障害教育を中心に、その他必要な研修を計画的に実施する。また、保育案をもとに実践、評価、見直しを今後とも継続したい。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のニーズに応じた指導方法について共に学び、共通理解を図りながら日々の授業に活かすため、計画的に研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部内研修会、校内専門研修会を、各会年間8回以上行う。 ・研究授業を実施し、全員で参観して、授業研究会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部内研修やグループ研修を8回以上行った。 ・A組の研究授業を2回実施し、ビデオ視聴も含め全員で参観し、授業研究会を行うことができた。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・部内研修においては、方策として具体的なテーマを絞って研究することを考えていきたい。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の基礎基本を踏まえ、専門性の向上を図るため、学部での研修を計画的に行う。中学部生徒の眼疾患や配慮事項についての理解を深め、日々の指導に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部生徒の眼疾患や配慮事項について等の研修を、年間3回以上実施し、共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回研修を行った。1学期は、幼小中学部全体のケース会と、中学部で中学部生徒の眼疾患についての研修を行い、眼疾患のためどのような見え方をしているのか疑似体験をした。2学期は、中学部で生徒のケース会を行い、現在の生徒の実態を確認し合い、実態に応じた支援方法について共通理解を図った。その結果、日常生活や学習場面において研修内容を活かした支援をすることができた。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度についても計画を立て、定期的に研修を行い、生徒の実態やニーズに応じた研修内容を活かした共通した支援を続けていきたい。

高等部職業学科	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の視力の状態に適した環境で学習をさせるため、ICTを活用した授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業を、各教員が年間3回以上実践する。 ・アンケートで75%以上の生徒から、授業内容が理解しやすくなったとの評価を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業は日常化しており、全員の教員が最低3回はICTを活用した授業を実践した。 ・90%の生徒が「分かり易くなった」または、「まあまあ分かり易くなった」と評価している。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・10%の生徒がICT活用の授業について「あまり分かり易くなったと思わない」と答えているところから、次年度はICTの適切な活用について考えていきたい。
---------	---	--	---	---	--	---

③聾学校との併置に向けた連携・協働を図り、地域社会への理解啓発に努めます。

具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
渉外・安全課 <ul style="list-style-type: none"> ・学校環境ISOの取り組みのひとつとして、ゴミの分別と資源ゴミの回収を行い、環境に対する意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃強化週間を月1回設け、清掃チェック票を用いて、ゴミの分別やりサイクル状況を把握し、チェック箇所の9割が「良い」を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃強化週間を月1回設けた。 ・清掃チェック票を用いて、ゴミの分別やりサイクル状況を把握した。 ・チェック箇所の9割以上が「良い」であった。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃強化週間以外でも環境美化に務める。 ・新校舎におけるゴミ箱等の環境備品の整備を行う。
教務課 <ul style="list-style-type: none"> ・聾学校との併置に向けた連携・協働と、地域社会への理解啓発のため、オープンスクールの広報活動を聾学校と盲学校周辺の地域住民に対して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール期間の来校者数が文化祭を含め150人となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの広報用チラシを作成し、聾学校と盲学校周辺の地域住民に配布を行い広報活動を行った。今年度の来校者は128人と前年度を下回った。だが、来年度併置となる聾学校関係の来校が前年度より多くなり、聾学校との併置に向けた連携につながったのではないかと考える。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は併置となり、学校が新体制となるため、地域社会へのさらなる理解啓発が必要である。そのため、今年度以上に広報活動に努めたい。

生徒活動課	<p>・集団活動を通して集団の一員としての自覚を育み、自己を理解し役割を果たす能力を養うために、体育祭や文化祭等の学校行事での幼児児童生徒の交流や連携を図る。</p>	<p>・幼児児童生徒が協力し合えるような体育祭や文化祭を実施し、アンケート結果で満足またはやや満足を全体の70%以上得る。</p>	<p>・今年度は、体育祭、文化祭ともに全校で体育館アリーナで実施した。小・中・高等部の児童生徒はそれぞれに役割を持ち、準備や片付け、競技等に連携協力しながら参加できた。だが保護者の評価が70%に満たなかった。</p>	B		<p>・今年度、体育祭と文化祭が全校合同で実施できたことは評価できる。だが、保護者アンケートにおいて目標を達成できなかったため、次年度はさらに行事における満足度を上げられるような内容を考えて実施したい。</p>
人権・キャリア教育課	<p>・障害についての理解啓発に努めるため、高等部生の就業体験(実習)を1人2事業所(施設)以上で行う。</p>	<p>・就業体験後、事業所(施設)の担当者から障害理解についてアンケートを依頼し、理解度80%以上を得る。</p>	<p>・受け入れをしていただいた施設や事業所からは障害に関する理解を得られることができた。高等部においても当初の計画通り就業体験を実施することができた。しかし、保護者に対して実施報告の場である「人権キャリアだより」発行のタイミングが悪く周知が届かなかった。</p>	B	<p>・アンケート結果からみても進路の状況が厳しいことがわかる。生徒の特性に応じた進路を開拓してほしい。</p>	<p>・高等部普通科、職業学科ともに年度当初の計画に基づいて就業体験を実施する。保護者への周知については、「人権キャリアだより」の発行を学期末ではなく学期中にする事で対応したい。</p>
サポート課	<p>・聴覚障害のある子どもや教職員と場を共有して生活するにあたり、必要な配慮事項について考えるため、文化祭において聾学校サポート課と合同で理解啓発のための展示を行う。</p>	<p>・文化祭後の児童生徒・保護者・職員向けアンケートにおいて、「聾学校の展示や配付物を通して聴覚障害についての新しい知識が得られた」という評価を全体の80%以上から得る。</p>	<p>・文化祭では、計画通りに展示を行った。聾学校に配付物の作成を依頼し、参観者や他の会場でも手渡してアピールを行った。訪れた家族等には全員に渡すことができたが、主なアンケート回答者である母親や生徒、職員は当日は忙しく、見てもらうことができなかったため、評定は低くなった。</p>	B	<p>・文化祭を地域にも積極的に広報するようしてほしい。</p>	<p>・次年度は併置となるため、両校の協働による特別支援センターの機能を整備する。</p>

研究・情報課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への理解啓発をめざし、学校ホームページに教育活動の様子や取組、行事予定や報告、給食メニューなどの新しい情報を掲載し、適宜更新していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページへのアクセス数が月平均で5000件以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員がホームページの更新ができるよう職員研修を実施し必要に応じてアドバイスをした。また、学部学科、校務分掌ごとに担当を決め更新作業のリーダーとなってもらった。このことによりホームページ記事への意識が高まり速やかな更新ができた。 ・1日当たり200～250回のアクセスがあり、1か月では6000回のアクセスがある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページだけに頼らない広報をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校名変更に伴い、ホームページのURLが変わる可能性があるため、変更周知を丁寧に行う必要がある。また、掲載してほしい記事の校内アンケートをとり、ホームページに反映する。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の聾学校との併置にスムーズに移行できるよう、昨年度の実践や成果を踏まえた交流や共同学習を行い、相互理解をより深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同遠足、高学年交流、学年交流など、年間3回以上の交流及び共同学習を行う。 ・共に活動する中で併置後お互いが気持ちよく過ごすための具体的な方策を探り、記録する。 ・盲学校での生活や地域の様子、また地域の小学校との交流の様子などを、学年交流やビデオレターなどを通して紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の社会見学を含め、年間3回の交流および共同学習を実施することができた。 ・遠足や高学年交流では、触る課題を工夫するなど、具体的な方策を考え実施した。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は実際に同じフロアで生活することになるので、実践や成果を踏まえて不都合なことや共同で行った方がよいことについて共通理解を図っていききたい。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・聾学校との併置に向け互いの理解を深めるため、聾学校中学部と交流及び共同学習を実施する。また、交流内容をホームページに載せ、地域社会への理解啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聾学校中学部と年間3回交流を行う。 ・交流報告をホームページに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期までに3回の交流を実施した。事前に学習や新校舎建築の様子を収めたビデオレターを作り、聾学校生徒に見てもらった。7月はテレビ会議システムで自己紹介をしたり新校舎の工事の様子を紹介したりした。9月は本校にて一部の生徒と交流した。12月は聾学校文化祭に参加し、交流を深めた。 ・それぞれの交流についてホームページにて報告を行い、理解啓発を行えた。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・併置後は、交流を通して学んだことを活かし、交流を継続したい。

<p>高等部普通科</p>	<p>・買い物学習や清掃活動などの校外学習を行い、それらを通じて盲学校の存在を地域社会にアピールする。</p>	<p>・清掃活動等で出会った地域の人の方に自分からあいさつするなど積極的にコミュニケーションをとることができる。(7割以上できたらA評価とする)</p>	<p>・学校周辺の商店での買い物学習や二軒屋駅の清掃活動を行った。あいさつはできていたが、促されないと言葉が出ない場面もあった。</p>	<p>B</p>		<p>・自然にあいさつの言葉が出るように日頃からの指導を続けていく。</p>
<p>高等部職業学科</p>	<p>・盲学校と聾学校の併置を踏まえ、聞こえにくさについて考える機会を持つ。</p>	<p>・聞こえにくさについて考える機会を年間1回以上持つ。</p>	<p>・10月11日(金)の5・6校時、NPO法人 聴覚・ろう重複障害者生活支援センター代表 戎浩司氏による「成人の聴覚障害者の生活の現状および社会的制度の確立に向けての取組について」と題する講演を実施した。 ・80%の生徒がこのことについて「考える機会があった」、または「まあまあ考える機会となった」と回答している。</p>	<p>B</p>		<p>・20%の生徒は「あまり考える事ができなかった」、または「全然考えられなかった」と答えており、次年度以降の研修のあり方を講演型ではなく参加型にするなど考えていく必要がある。</p>
<p>寄宿舍</p>	<p>・寄宿舍は視覚障害がある生徒と、聴覚障害がある生徒との共同生活となるため、お互いを理解し、どのように関わっていくかを考える機会を持つ。また、地域社会へも併置に向けた取り組みの情報発信をしていく。</p>	<p>・両寄宿舍の行事を通して、年間1回以上の交流の機会を持ち、全体会でも手話学習などを行う。また、その様子をホームページなどで随時紹介していく。</p>	<p>・6月に交流行事を行い聴覚障害がある生徒とボーリングを通して楽しく交流することができた。また事前学習として、全体会で手話学習を行い、聴覚障害がある方との関わり方などについて考える機会をもつことができ、行事当日もその学習を反映することができた。行事の様子もHPなどで情報発信を行ったが、保護者からはC、Dの評価が各1名ずつあった。</p>	<p>B</p>		<p>・次年度は、寄宿舍の生活の様子が保護者に充分伝わるように、HPに加え、それ以外の方法についても検討する。</p>